

道内さつまいも生産者の皆様へ

サツマイモ基腐病に注意！！

～北海道に病害をまん延させないために～

サツマイモ基腐病は、さつまいもの茎葉やいもに枯死・腐敗を引き起こす病害です。平成30年度に沖縄県、鹿児島県及び宮崎県において、我が国で初めて確認され、同県におけるさつまいもの収量減少の要因の一つとなっています。

近年、北海道内でも発生が確認されており、注意が必要です。

発生原因の一つとして、感染した種苗の持ち込みが考えられることから、健全な種苗の入手に努めましょう（侵入防止対策）。また、栽培期間中はほ場観察を行い、生育不良株の早期発見を心掛けましょう（まん延防止対策）。

サツマイモ基腐病とは



地上部の生育不良・枯死



株元の茎が黒変



なり首側からの腐敗

写真：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より

○病原菌：糸状菌（カビの一種）

○伝染方法

罹病苗や種いもを植えることで、発病株から周囲に被害が広まる
土壌中では主に感染した植物残さ上で越冬する。

○病徴及び被害

病徴は茎、いもの褐～黒変（被害が激しい場合は萎れて枯れる）。
病徴は地際部からいもに向けて進行し、いもは暗褐色に変色、腐敗して硬化し、商品価値を失う。

【北海道さつまいも連絡会議】

ホクレン農業協同組合連合会、北海道エア・ウォーター・アグリ(株)、北海道さつまいも懇話会、(地独)北海道立総合研究機構、(一社)北海道農業機械工業会、北海道事務局：北海道農政部農産振興課（011-204-5436）

生産者の皆様に実践していただく対策

～基腐病を持ち込まない、ほ場での早期発見～

■侵入防止のための対策

- 1 購入する苗について、未発生ほ場で生産されたことを確認するなどし、健全苗を確保する。
- 2 植付け前に苗消毒（ベンレート水和剤・ベンレートT水和剤）を行う。
- 3 苗を育成する場合は次のことに留意する。
 - ・基腐病未発生ほ場から採取した健全ないもを利用するとともに伏せ込み前に必ず選別する。
 - ・消毒（トップジンM水和剤など）した種いもを伏せ込む。
 - ・地際部から5cm以上切り上げて採苗し、採苗当日に苗を消毒する。消毒液は当日調整した薬液を用いる。
 - ・採苗時に用いるハサミはこまめに消毒する（火炎滅菌又は丁寧な洗浄とふき取り）。

■ほ場での生育観察をこまめに行いましょう（早期発見）

- 1 ほ場でさつまいもの生育をよく観察し、生育不良株で基腐病が疑わしい症状を見つけた場合は、最寄りの農業改良普及センター・農業試験場または病害虫防除所に連絡願います。
- 2 基腐病と確認された場合は、早期に除去しほ場外に持ち出して適切に処分する。また、周辺株への感染予防のため、本病に登録のある薬剤を散布する。

○サツマイモ基腐病の発生生態や防除対策に関する技術情報は、農研機構Webサイトに公表されている、「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和4年度版)」より引用。
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html

■さつまいもの苗等からの持込に注意すべき病害虫

府県からの種苗導入では病害虫を持ち込むリスクがありますので注意が必要です。

令和5年2月、施設内で栽培するさつまいも苗（府県産）から、道内未発生の「タバココナジラミ・バイオタイプQ」が確認されています。バイオタイプQとは、野菜類の防除に使用するピリプロキシフェンやネオニコチノイド系の殺虫剤が効かない系統です。



タバココナジラミ（道総研原図）

※疑わしい事案があった場合は、最寄りの農業改良普及センター等に連絡願います。